

高齢者も「楽しみ」を

介護付き旅行や出張ラーメン店

介護付き旅行に出張ラーメン店。介護が必要な高齢者向けのこんなサービスが札幌市の若手経営者が始めた。人口一極集中と高齢化が進む同市で、「楽しみ」を持ち続けてほしいとの思いから生まれた事業だ。

札幌で30代経営者が事業化

介護付き旅行の「夢たぴ」は、要介護者の日帰りや宿泊付きの温泉旅行に介護資格者が同行する。旅先での血圧計測や入浴後の湿布薬の介助、おむつ交換や入浴介助などにも、きめ細かく対応するのが特徴だ。札幌市の不動産会社「秋吉」が6月から始めた。

秋吉は登別温泉で94年間続いた「秋吉ホテル」を営み、いまは江別市で通所介護施設などを運営する。

「利用者から『温泉旅行なんてもう無理ね』との声を聞いたことが事業化のきっかけだった」と5代目の秋吉社長(34)は言う。国内旅行の企画・募集が出来る「旅行業登録」を昨年12月に取得した。

通常の旅行料金の2〜3倍するが、介護資格者は自社の社員と専属契約ヘルパーをあてており、秋吉社長は「安心感で需要を掘り起こしたい」と話す。

すでに数件の問い合わせがあり、今月は親子4世代で同市の定山溪温泉へ日帰りする予約があるという。

高齢者施設で「出張ラーメン店」を開くのは、札幌市北区の「麺処そめいよし」の「新宅崇さん(38)」。脱サラして昨年10月に店

舗を構えた一方、依頼があると、施設の調理室にずん胴鍋を持ち込んで提供している。5千円の出張費がかかるが、ラーメンは同じ値段。豆乳でまるやかに仕上げたみそや和風しょうゆなどどれも店舗と同じ味だ。今年2月の初回の出張では45食が売れた。口コミで市内だけでなく、石狩市の施設からも依頼があった。

高齢者施設に入居する義父が「外食がしたい、本物のラーメンが食べたい」と嘆いたのを聞き、事業を思いついた。新宅さんは「のびた麺を届けたくない。施設調理なら、かためん、柔めんの加減もできる。要望があれば残さず食べられるミニサイズも可能です」と張り切っている。

問い合わせは、秋吉は(011・211・1424)、「麺処そめいよし」は(011・299・2297)へ。(加賀元)



介護付きの旅行事業を始めた秋吉の秋吉社長(秋吉社長)札幌市中央区

「麺処そめいよし」店主の新宅崇さん(札幌市北区篠路)